

これからの英語教育の在り方

語彙指導における中・高の連携

1.日本人中・高生の基本語彙

学校	科目	語数
中学校	英語	900語程度まで(必修100語を含む)
高校	英語 I	中学校の語彙に加え400語程度まで
	OC I	英語 I と同程度
	英語 II	英語 I の語彙に加え500語程度まで
	OC II	英語 II の語彙の範囲内
	Reading	英語 I の語彙に加え900語程度まで
	Writing	英語 I の語彙の範囲内

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

2

1. 中・高生の基本語彙

- 『学習指導要領』の語彙
 - ✓ 中学校(必修100語を含めて900語程度)
 - ✓ 高校(「英語 I」400語、「英語 II」500語、「リーディング」900語程度)
→6年間で約3000語
 - ✓ 日本人大学生が知っている語彙数の平均は3,769語(望月・相澤 2000)

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

3

1. 中・高生の基本語彙

- 「日本人学習者が学習すべき語彙数」
 - ✓ 英語母語話者は辞書の見出し語換算で最低50,000語は理解できる(Aitchison 2003)
 - ✓ 日本人が、英語母語話者を理解するのに必要な語彙力は7000~8000語である(竹蓋 1987)
 - ✓ 日本人が英語を活用しながらより高い力をつけていくために必要な「基本英語力」は10,000語(茂木 2004)
 - ✓ 使用頻度の高い3,000語を知っていれば文脈からの未知語推測が可能(Nation 1997)

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

4

2. 語彙の分類(1)

- 機能語(function word)
 - ✓ 文法的な働きを持っているが、内容的な意味が希薄な語
→冠詞、助動詞、人称代名詞、前置詞、接続詞など
- 内容語(content word)
 - ✓ 単独で独立した意味を持つ語
→名詞、形容詞、動詞、副詞、指示代名詞、疑問詞など

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

5

2. 語彙の分類(2)

- 受容語彙(receptive vocabulary)
 - ✓ 意味を理解することはできるが、正しく使用することができない語
- 発表語彙(productive vocabulary)
 - ✓ 意味理解だけでなく、スピーキングやライティングでも使うことができる語

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

6

3. 語彙学習の分類

- 意図的学習(intentional learning)
 - ✓ 単語帳などを使っての単語学習などのように、語彙学習を目的として行う学習
 - 偶発的学習(incidental learning)
 - ✓ ペーパーバックを読むことなど、英語使用を目的として二次的に語彙が習得されていく学習
- 日本では英語との接触が限られているので、偶発的学習のみでは不十分であり、特に2,000~3,000語レベルの基本語彙は意図的学習により習得させる必要がある。

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

7

4. 「単語を知っていること」に含まれる要素 (Nation 2001) 『語形』

- 音声
 - ✓ (受容)当該語がどのように聞こえるか
 - ✓ (産出)当該語がどのように発音されるか
- 綴り
 - ✓ (受容)当該語はどのように見えるか
 - ✓ (産出)当該語はどのように綴る
- 語の構成要素
 - ✓ (受容)当該語の構成要素(接辞など)を見分けられるか
 - ✓ (産出)構成要素(接辞など)を使って意味をあらわせるか

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

8

4. 「単語を知っていること」に含まれる要素 (Nation 2001) 『意味』

- 語形と意味
 - ✓ (受容)当該語がどのような意味をあらわすか
 - ✓ (産出)ある意味をあらわすための語形を使用できるか
- 概念と指示物
 - ✓ (受容)ある概念に含まれるものは何か
 - ✓ (産出)ある概念が指示するものは何か
- 連想
 - ✓ (受容)当該語は他のどの語を連想させるか
 - ✓ (産出)当該語の代わりに他のどの語を使用できるか

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

9

4. 「単語を知っていること」に含まれる要素 (Nation 2001) 『使用』

- 文法的機能
 - ✓ (受容)当該語はどのような文型であられるか
 - ✓ (産出)当該語をどのような文型で使用するか
- コロケーション
 - ✓ (受容)当該語はどのような語といっしょにあられるか
 - ✓ (産出)当該語はどのような語といっしょに使用するか
- 使用における制約(使用域、頻度など)
 - ✓ (受容)どのような場面で、いつ、どのくらい遭遇するか
 - ✓ (産出)どのような場面で、いつ、どのくらい使用するか

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

10

(参考)単語力に含まれる要素・技能

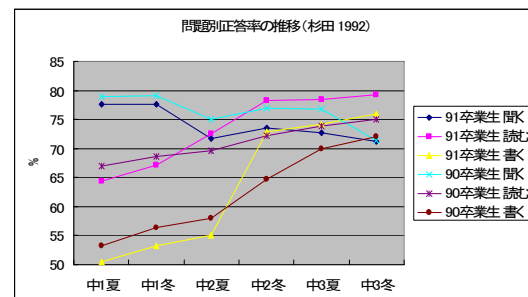
- 羽鳥(1994)
 - ✓ 単語を発音してやれば意味がわかる
 - ✓ 単語を見せられれば意味がわかる
 - ✓ 日本語を言われればそれに相当する単語が言える
 - ✓ 日本語を言われればそれに相当する単語が書ける
 - ✓ 一定の文型にいろいろの単語を入れかえて文を作ることができる
- それぞれの生徒に得意な点を見つけてやり、教室で得意を発揮する機会を与え、ほめるようにする。

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

11

(参考)単語力の伸び方の違い



2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

12

5. 語彙の指導方法

「3Cアプローチ」(Seal 1991)

- 「意味を伝える(Convey meaning)」
 - ✓ 言語材料の中から学習者が学ぶべき語彙を特定しておく
 - ✓ 「語彙の提示」は文字を使って行うのか、口頭で行うのかを考える
 - ✓ 「意味を伝える活動」は語彙の提示の前に行うのか、後で行うのかを考える

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

13

「意味を伝える」活動例

	意味を伝える活動を先に行う	意味を伝える活動を後で行う
口頭による語彙の提示	オーラルイントロダクション	英語で質問し、実物で意味を与える
文字による語彙の提示	線画で意味を伝えるから単語を書く	フラッシュカードで単語を提示する

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

14

5. 語彙の指導方法「3Cアプローチ」

- 「確認する(Check)」
 - ✓ 語彙が正確に学習されたかを確認する
 - ✓ 口頭による方法と文字を利用する方法がある
 - ✓ 意味だけでなく発音や綴りも確認の対象とする

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

15

「確認する」活動例

	直接的に行う	間接的にを行う
口頭による確認	テキストの要約から確認対象の語彙を答えさせる	英語で質問し、対象語彙に関連する情報を答えさせる
文字による確認	ワークシートの空欄に対象語彙を書き入れる	対象語彙と関連のある語句を選ばせる

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

16

5. 語彙の指導方法「3Cアプローチ」

- 「定着させる(Consolidation)」
 - ✓ 学ぶべき語彙を、学習者の長期記憶に留めるための活動
 - ✓ 受容語彙として定着させ、必要と判断される語彙については発表語彙にまで高める
 - ✓ 一度に多くの時間をかけて行うよりも、計画的に繰り返して行うのがよい

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

17

「定着させる」活動例

受容語彙として	発表語彙として
ペア・マッチング 単語を整理・分類させる 単語の語源について考えさせる	新出語を含む10個の単語の中から自分の使いたいものを3つ選んで、3つ以上の文を作る「3作文」に取り組みさせる

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

18

6. 語彙指導における中・高の連携

- 中学校における留意点
 - ✓ 綴りと意味だけを覚えさせるのではなく、音声の上からも確実に指導する
 - ✓ 意味を文脈の中で理解させるようにする
 - ✓ 言語活動の中で新出語句を使用させ定着を図る
 - ✓ 機能語は文や句の形で覚えさせるようにする
 - ✓ 自己表現活動に取り組ませ、発表語彙として運用できるようにする

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

19

6. 語彙指導における中・高の連携

- 高校における留意点
 - ✓ 入学直後にテストを行い語彙習得のレベルを把握する
 - ✓ 教科書に出る単語の予習の仕方を教える
 - ✓ 英語 I・IIレベルの日常的な単語は発表語彙として定着させるようにする
 - ✓ 抽象的な語や難しい語は、受容語彙のレベルにとどめて扱うようにする

2006/7/28

英語教育ワークショップ研修会

20